

第13回目の横浜市民生活白書「コミュニティから横浜の未来を拓く」をお届けします。

家族のあり方や暮らし方が多様化する現代、横浜市でも心配ごとを抱える市民が増加しています。今回の白書では、大きな変化の中にある市民の暮らしを統計データや市民の意識調査などから分析し、市民にとっての「暮らしやすい地域社会」とはどのようなものなのか、を考えました。

日本全体では既に人口減少社会を迎えています。横浜市ではまだ人口が増え続けています。しかし、地域によっては減少傾向にあるまちも増えてきました。また、本格的な少子・高齢社会は確実に進み、地域社会の役割はますます高まると考えます。横浜市内の各地をみると、市民は、暮らしやすい地域社会をつくるために、活発な活動を展開し、その知恵と元気の中に、来るべき社会をコミュニティから切り拓く可能性が見えてきます。その力強い動きを次世代に引き継ぐために、「暮らしやすい地域社会指標」としてまとめました。

この白書が横浜の未来のまちを共に築いていくための一助となれば幸いです。

